

「2020年 播磨工芸美術展」 出展者プロフィール(12人)

※五十音順

■飯田 あき (いいた あき) 【染織】

蒔染(ろうけつぞめ)の技法を用いて、その表現をこころみる。兵庫県工芸美術作家協会参与、兵庫県工芸美術展神戸新聞社大賞、N氏賞、兵庫県芸術文化団体半どんの会文化賞、姫路市芸術文化賞受賞。姫路市在住

■飯塚 博子 (いづか ひろこ) 【染織】

兵庫工芸展(公募)第46回準大賞、第47回兵庫県知事賞。県展2011年兵庫県芸術文化協会賞、2014年神戸新聞社賞。2009年及び2011年播磨・工芸ビエンナーレ準グランプリ。兵庫県工芸美術作家協会会員、姫路美術協会会員、姫路市在住

■小野 紘之 (おの ひろゆき) 【陶芸】

伝統から現代的な物まで自由に制作。兵庫工芸美術展(公募)準大賞、神戸新聞社賞。光風会京都展京都新聞社賞、播磨・工芸ビエンナーレグランプリ、兵庫工芸美術展(会員)神戸新聞社大賞。兵庫県工芸美術作家協会会員、姫路美術協会会員。姫路市在住

■上出 真由美 (かみで まゆみ) 【陶芸】

平成11年(1999年)陶芸を学ぶ。2009年兵庫工芸展(公募)準大賞受賞、2010年兵庫県展佳作受賞、兵庫工芸展(公募)神戸新聞社賞受賞、2009年及び2013年播磨・工芸ビエンナーレ佳作、2017年同播磨工芸会賞。兵庫県工芸美術作家協会会員、姫路美術協会会員、姫路市在住

■喜多 千景 (きた ちかげ) 【陶芸】

平成5年(1993年)川西幹雄氏に師事。兵庫工芸美術展・神戸市長賞・県教育委員会賞・神戸新聞社賞、2015年播磨・工芸ビエンナーレ播磨工芸会賞、2017年播磨・工芸ビエンナーレ準グランプリ、兵庫県工芸美術作家協会会員、姫路美術協会会員、姫路市在住

■清瀬 光洋 (きよせ みつひろ) 【陶芸】

平成9年(1997年)陶芸を始める。平成11年(1999年)姫路市夢前町糸田に窯(あながま)を築窯。2015年・2018年日展入選、2018年・2019年・2020年日本伝統工芸近畿展入選。兵庫県工芸美術作家協会会員・姫路美術協会会員。姫路市在住

■竹尾 壽敏 (たけお ひさとし) 【漆芸】

昭和49年(1974年)、漆芸家・小林博氏に師事。昭和53年(1978年)より現在の工房で創作活動。色漆を主体に螺鈿(らでん)、鉛などを用いて屏風などを制作。日本現代工芸美術展、日仏現代美術展入選。第47回・第49回兵庫工芸展兵庫工芸賞、姫路市芸術文化賞受賞、姫路市在住

■西島 玲 (にしじま れい) 【染織】

昭和56年(1981年)、兵庫県工芸美術作家協会に入会。主として、綴織(つづれおり)を主体にタピストリーなどを制作。兵庫県工芸美術展(公募)県知事賞、協会賞、兵庫県工芸美術展(会員)神戸新聞社大賞、兵庫県工芸美術作家協会会員大賞、姫路市芸術文化奨励賞受賞。姫路市在住

■西山 まい美 (にしやま まいみ) 【染織】

「染めたり、織ったり、遊んだり」を合言葉に、服飾雑貨から空間造形作品まで幅広く制作。国展、兵庫工芸展、播磨工芸ビエンナーレなどの公募展にて入選・入賞。2012年姫路文連・黒川録朗賞受賞。現

在、兵庫県工芸美術作家協会会員、姫路美術協会会員、姫路市在住

■山本 和子（やまもと かずこ）【染織】

私たちは年々の資源で仕事をし生活をしています。自然、森の循環:人との関わりに思いを馳せ「森へ行こう」と題した織物作品を制作し続けています。現在、国画会会員、兵庫県工芸美術作家協会相談役、アジア文化造形学会監事、姫路市芸術文化賞、兵庫県文化功労者受賞。姫路市在住

■山本 喜容子（やまもと きよこ）【陶芸】

昭和53年(1978年)、陶芸を始める。長谷川肇氏に師事。穴窯を築き、喜容恋窯と命名。オブジェ花器、創作陶芸を目指す。光風会会員、加西市美術家協会理事、姫路美術協会、兵庫県工芸美術作家協会、神戸芸術文化会議会、半どん播磨の会会員、神戸市民文化振興財団講師。光風会奨励賞、兵庫県工芸美術展(公募)協会大賞2回。加西市文化功労賞受賞。加西市在住

■米田 敬子（よねだ けいこ）【革工芸】

昭和58年(1983年)、羽田真氏に師事、アメリカンクラフトを廣瀬静子氏に師事。革のぬくもりに支えられてレリーフの壁面、タピストリーなど自然をモチーフに制作。姫路美術協会、兵庫県工芸美術作家協会会員。兵庫県工芸美術展協会大賞、N氏賞、姫路文連・姫路文化賞、姫路市芸術文化奨励賞受賞。たつの市在住